

# Challenge 挑

松岡建設(三重郡川越町、松岡伸年社長)が、自社の施工ノウハウを生かして開発したウレタン系防草工法「ウィードコート工法」。国土交通省の新技術情報提供システムNETISに登録され、自社での運用開始から1年余りが経過した。「自社での運用1年目は三重県内を中心に行ってきたが、次の展開は三重県外」と、自社の営業エリアを超え全国的な普及に乗り出す。目標は「09年は東海4県、10年以降は全国」と話す松岡社長に今後の展開を聞いた。

(聞き手は北勢通信部 松川岳史)

「ウィードコート工法」にエリアを広げ活動を開始が、普及開始から2年目にしている。地元建設会社も全国各地域に貢献できる技術があることを証明した。1年目は、三重県各所で合計延長約10kmを施工し、普及にめどがついている。そして2年目。これまで以上の展開を期し、中部地方整備局管内の愛知、岐阜、静岡を含めた東海4県

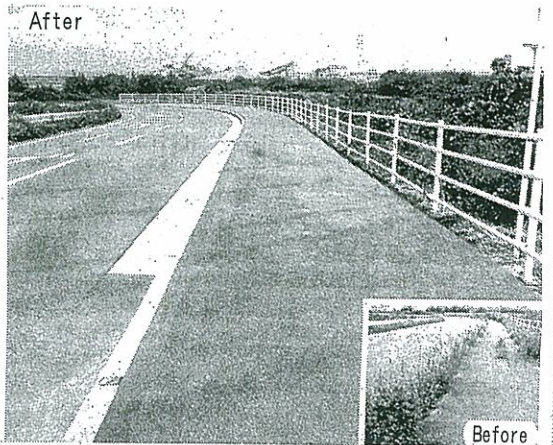
くなり、舗装面も傷む。草が生えない道路面を維持する方法がないか、日々施工に従事する中でたどり着いたのがウレタン樹脂を流し込み、すき間を埋める防草という答えだった。

「ウレタン素材の開発ノウハウを持つ関連会社の名阪商事と製造会社のウレタン技術工業と提携して進め

てきた。われわれが施工した際に気付いた問題点を開発にフィードバックしている。草が伸びそれが視界を妨げて車や歩行者の安全を阻害することの問題解決に直結している。初期コストは割高だが、ランニングコストで考えても10年程度は必要が見込めるからだ。そして、2液混合のウレタン樹脂の

## ウィードコート工法を全国展開へ

特徴としてさまざまなカラーに対応できる。公共は



防草から発想したウィードコート工法(右は施工前)



松岡建設(川越町)

松岡 伸年 社長

## 県外は信頼置ける代理店で各地域の活性化につなげたい

「NETIS登録から数えて5月で1年が経過した。1年目は、三重県各所で合計延長約10kmを施工し、普及にめどがついている。そして2年目。これまで以上の展開を期し、中部地方整備局管内の愛知、岐阜、静岡を含めた東海4県

め、管外への直接進出は体力的、営業ノウハウ的にも問題がある。地元根差す企業としての業態が、遠方に出ていくことを難しくさせているのは事実だ。他県に行けば他県の事情があるだろう。そこで、施工代理店方式を採用し、信頼できる地元企業に施工をまかせたい。われわれが地元企業として、地域の信頼を得る努力を惜しまないように、その地その地には地元の信頼の厚い企業がいる。自治体や住民との接点から見て